

## 市原市の工業

本市の工業は、昭和 32 年に養老川河口以北の臨海部で開始した埋立工事を契機に、石油化学工業をはじめとする大手企業が埋立造成地に多数進出し、飛躍的な発展を遂げた。本市の製造品出荷額等は全国市町村中、第 2 位となっており、全国屈指の石油化学コンビナートである京葉臨海工業地帯の中核を担っている。(表-1)

現在、臨海部の企業は、国際競争の激化や国内需要の縮小、設備の老朽化など様々な課題に直面しており、事業の効率化や高度化に取り組むとともに、企業の枠組みを超えたコンビナートの再構築を進めている。

また、「市原特別工業地区」、「潤井戸工業団地」などの工業地区では、優れた技術や技能を有する中小企業が集積しており、本市の工業は世界市場を相手にした国際企業から地域社会に根ざした小規模企業者まで多種多様な企業で構成され、本市を代表する産業となっている。

表-1

### 製造品出荷額等全国上位 10 市

順位	市町村名	製造品出荷額等 (万円)
1	豊田市	1,308,473,198
2	<b>市原市</b>	<b>533,720,233</b>
3	倉敷市	465,925,726
4	川崎市	454,843,922
5	横浜市	433,296,113
6	堺市	382,127,862
7	大阪市	363,482,555
8	名古屋市	354,938,074
9	四日市市	317,992,223
10	大分市	311,654,318

### 工業地区の開発経過

- ・昭和 32 年「五井・市原地区」の埋立工事の着工と予約分譲を開始
- ・昭和 37 年「五井・姉崎地区」の埋立工事を着工
- ・昭和 40 年「市原特別工業地区」準工業地域に指定
- ・昭和 43 年「五井・市原地区」の分譲完了
- ・昭和 47 年「潤井戸工業団地」の分譲完了
- ・昭和 49 年「五井・姉崎地区」の分譲完了
- ・平成 22 年「潤井戸特定土地区画整理事業」の完了
- ・現在に至る

平成 26 年工業統計調査（経済産業省）

#### ※市原特別工業地区

特別工業地区とは、都市計画法第 8 条で定める特別用途地区の一つで、工業系用途地域内において特別な目的から土地利用の増進、環境の保護を図るために指定した地区をいう。

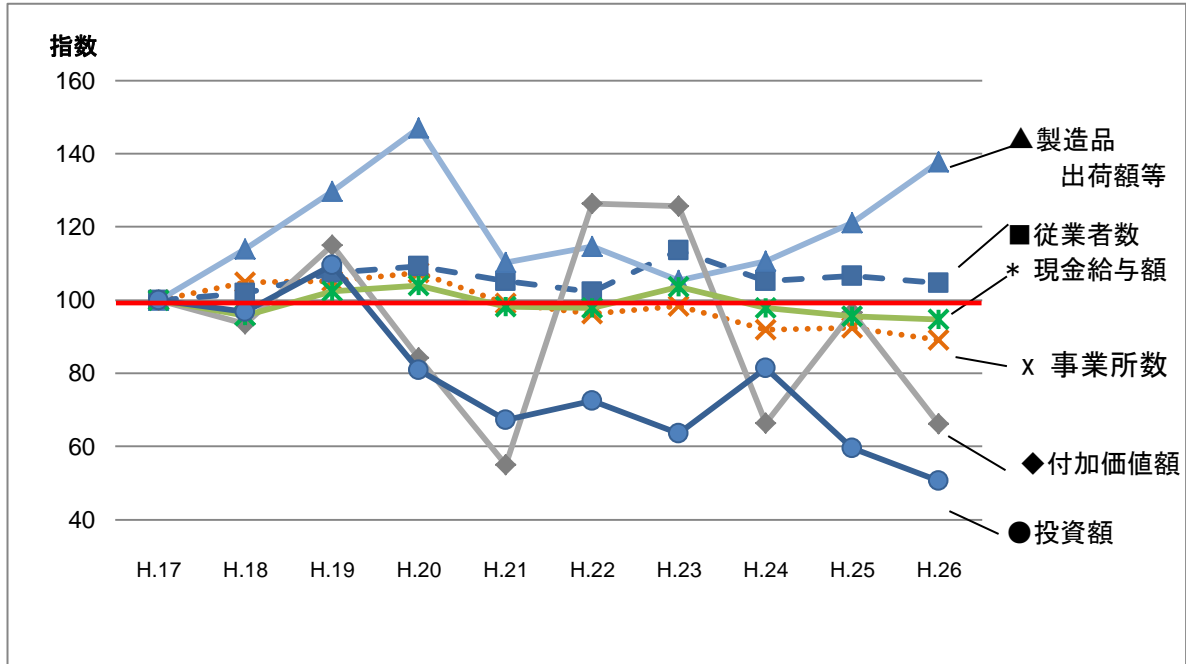
「市原特別工業地区」は、臨海部の工業地帯と既成市街地との緩衝地帯として周辺地域の生活環境を保全し、秩序ある都市の発展を目的として指定した。

## I. 概 況

平成 26 年の本市の工業は、製造品出荷額等が前年を上回り、事業所数、従業者数、付加価値額、現金給与総額、投資額が前年を下回った。(図 I-1, 表 I-1)

一方、製造品出荷額等については、前年に引き続き増加し、増減率+13.74%となっている。付加価値額については、増減率-31.39%と大幅な減少となった。

図 I-1 本市工業の推移 (従業者 4 人以上の事業所 指数：平成 17 年を 100 とする)



平成 26 年工業統計調査・市原市の工業 (統計調査室)

表 I-1 主要項目結果表 (従業者 4 人以上の事業所)

区 分		H24 年度	H25 年度	H26 年度	対前年 増 減	増減率 (%)
事業所数	事業所	269	271	261	▲10	▲3.69
従業者数	人	20,561	20,858	20,482	▲376	▲1.80
製造品出荷額等	万円	428,510,217	469,255,449	533,720,233	64,464,784	13.74
付加価値額	万円	45,903,772	66,797,092	45,829,829	▲20,967,263	▲31.39
現金給与総額	万円	12,734,260	12,441,425	12,325,403	▲116,022	▲0.93
投資額	万円	10,066,512	7,366,962	6,267,405	▲1,099,557	▲14.93

(注) 投資額のみ従業者 30 人以上の事業所が対象

平成 26 年工業統計調査・市原市の工業 (統計調査室)

## 1. 事業所数（従業者4人以上の事業所）

平成26年末時点で、本市には事業所が261ある。県内市町村の中では第5位（構成比5.1%）となっている。

また、上位10市の多くは県北西部にあり、県内事業所の多くが県北西部に集中していることがわかる。（表I-2）

表I-2 事業所数県内上位10市

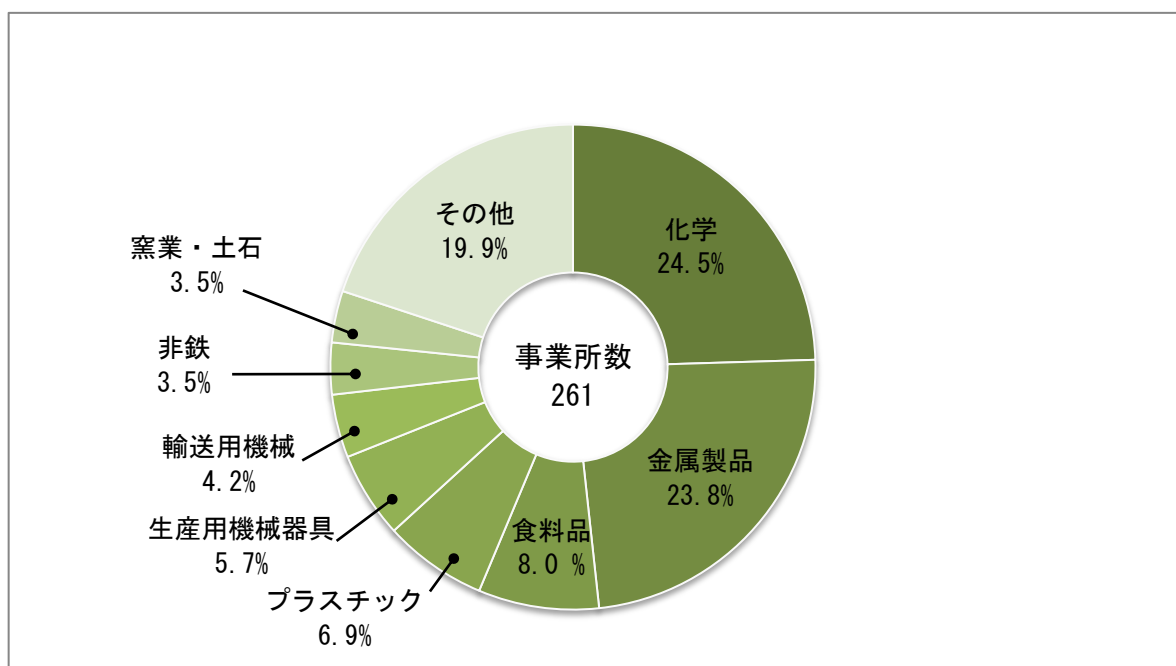
順位	市町村名	事業所数
1	千葉市	422
2	松戸市	314
3	野田市	311
4	船橋市	297
5	市原市	261
6	柏市	252
7	市川市	206
8	銚子市	175
9	八千代市	165
10	白井市	148
千葉県総数		5,101
市原市の構成比		5.1%

平成26年工業統計調査結果確報（千葉県）

### (1) 産業中分類別事業所数

事業所数の産業中分類別構成比をみると、「化学」64事業所（24.5%）、「金属製品」62事業所（23.8%）、「食料品」21事業所（8.0%）、「プラスチック」18事業所（6.9%）、と続いており、この4業種で全体の6割以上を占めている。（図I-2）

図I-2 事業所数の産業中分類別構成比



平成26年工業統計調査・市原市の工業（統計調査室）

### ※産業中分類

日本標準産業分類は、統計調査の結果を産業別に表示する場合の統計基準として、事業所において社会的な分業として行われる財及びサービスの生産又は提供に係るすべての経済活動を分類するものであり、統計の正確性と客観性を保持し、統計の相互比較性と利用の向上を図ることを目的として、昭和24年10月に設定されたものである。

この「日本標準産業分類」は、大分類、中分類、および小・細分類で構成されており、産業の多様化、複雑化にともない平成25年10月までに13回の改訂が行われている。

(例) 大分類：製造業、農業、卸売・小売業

中分類：金属製品、耕種農業、飲食料品小売業

小・細分類：金属素形材製品製造業、米作農業、酒小売業

## 2. 従業者数（従業者4人以上の事業所）

平成26年末時点で、本市の事業所に勤務する従業者数は20,482人であり、県内市町村の中では第2位（構成比10.2%）となっている。

本市の事業所数は県内第5位であるにもかかわらず、従業者数は県内第2位であることから、他市と比較して本市には従業者数規模の大きい事業所が多いことがわかる。（表I-3）

表I-3 従業者数県内上位10市

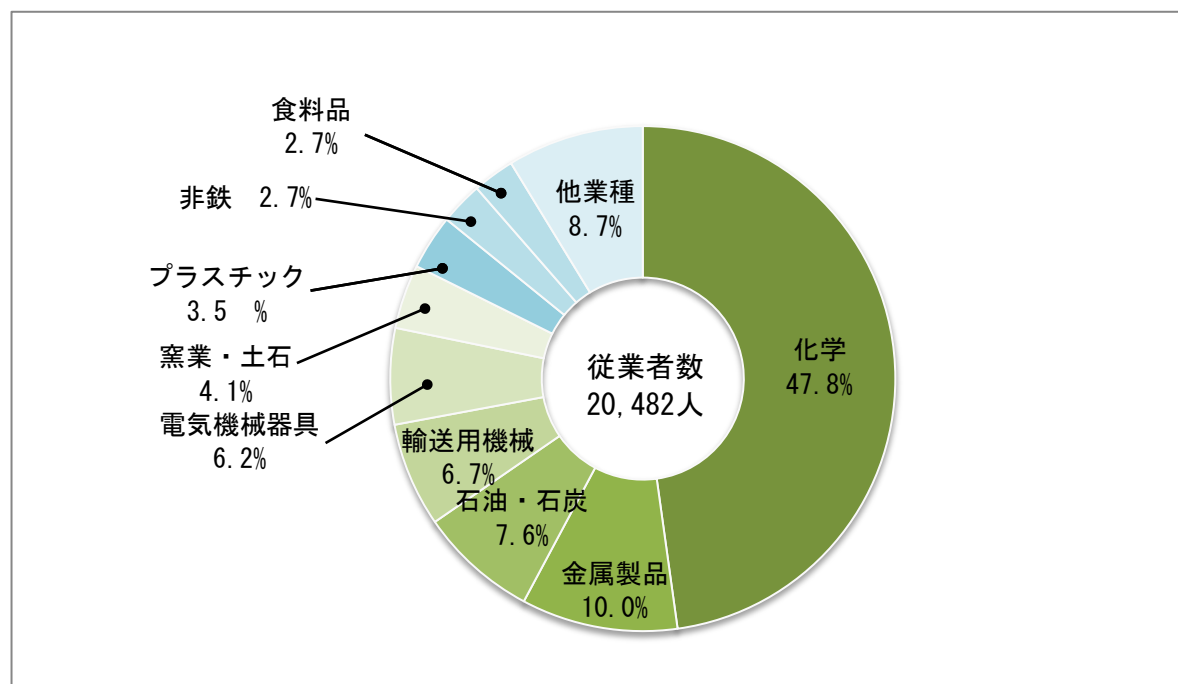
順位	市町村名	従業者数(人)
1	千葉市	20,647
2	市原市	20,482
3	船橋市	15,952
4	松戸市	10,437
5	野田市	10,169
6	八千代市	9,682
7	柏市	8,753
8	佐倉市	7,390
8	君津市	7,292
10	市川市	6,446
千葉県総数		200,718
市原市の構成比		10.2%

平成26年工業統計調査結果確報（千葉県）

### (1) 産業中分類別従業者数

従業者数の産業中分類別構成比をみると、「化学」9,790人（47.8%）、「金属製品」2,050人（10.0%）、「石油・石炭」1,554人（7.6%）と続いており、この3業種で全体の6割以上を占めている。（図I-3）

図I-3 従業者数の産業中分類別構成比

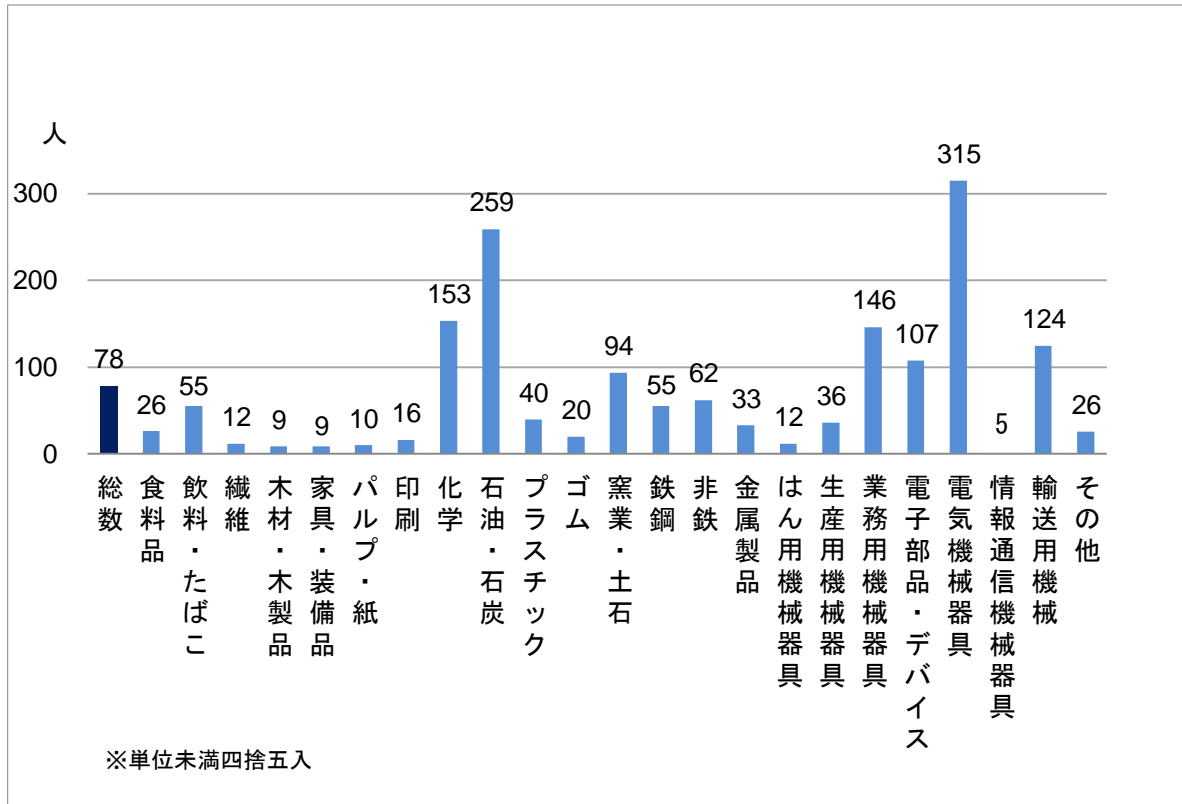


平成26年工業統計調査・市原市の工業（統計調査室）

### (2) 1事業所当たりの平均従業者数

1 事業所当たりの平均従業者数をみると、「電気機械器具」が 315 人で最も多く、次いで、「石油・石炭」の 259 人、「化学」の 153 人と続いている。(図 I - 4)

図 I - 4 産業中分類別の 1 事業所当たりの平均従業者数



平成 26 年工業統計調査・市原市の工業(統計調査室)

### 3. 製造品出荷額等(従業者4人以上の事業所)

平成26年末時点で、本市事業所全体の製造品出荷額等は5兆3,372億233万円で、県内市町村の中では第1位(構成比38.5%)となっており、全国においても第2位に位置している。

また、上位10市の多くが京葉臨海工業地帯に含まれており、臨海部が県工業の中核であることがわかる。(表I-4)

表I-4 製造品出荷額等県内上位10市

順位	市町村名	製造品出荷額等(万円)
1	市原市	533,720,233
2	袖ヶ浦市	141,703,458
3	千葉市	123,474,877
4	君津市	82,951,198
5	船橋市	64,168,981
6	野田市	36,791,496
7	市川市	36,312,966
8	松戸市	33,439,990
9	佐倉市	26,784,315
10	柏市	26,274,845
千葉県総額		1,387,432,982
市原市の構成比		38.5%

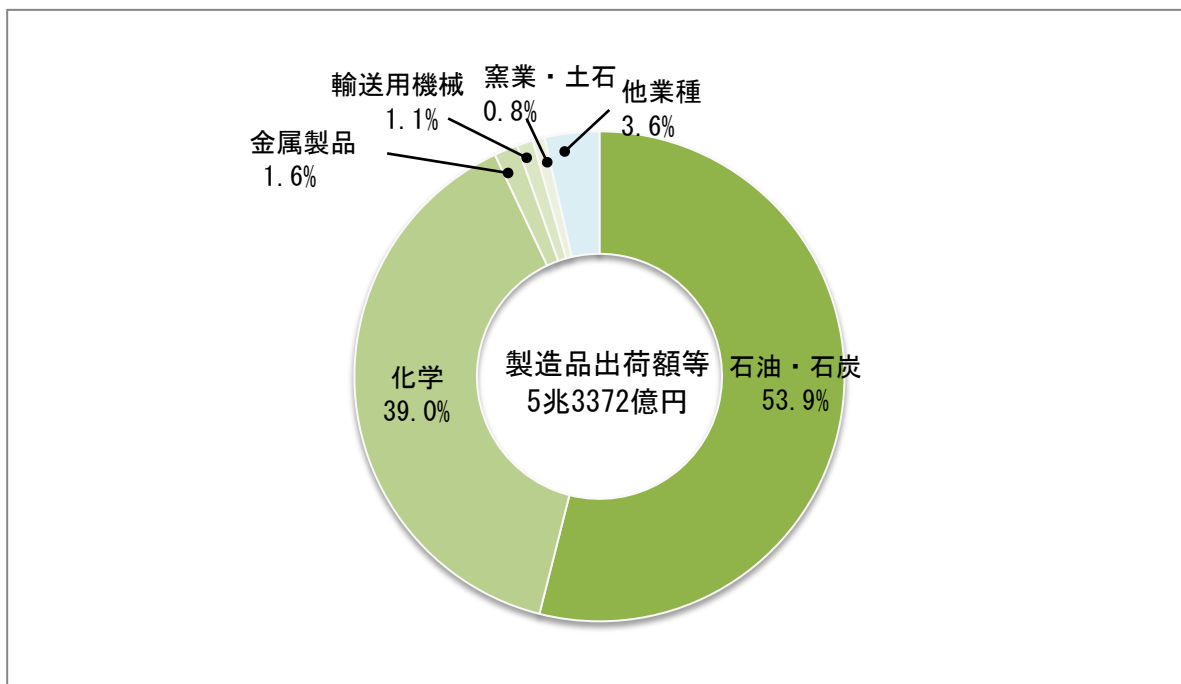
平成26年工業統計調査結果確報(千葉県)

#### (1) 産業中分類別製造品出荷額等

産業中分類別構成比をみると、「石油・石炭」2兆8,790億円(53.9%)、「化学」2兆840億円(39.0%)と突出しており、この2業種で全体の9割以上を占めている。

(図I-5)

図I-5 製造品出荷額等の産業中分類別構成比



平成26年工業統計調査・市原市の工業(統計調査室)

### ※製造品出荷額等

1年間の製造品出荷額、加工賃収入額、くず廃物の出荷額及びその他の収入額の合計で、消費税及び内国消費税を含んだ額である。

- 1 製造品の出荷とは、その事業所の所有する原材料によって製造されたもの（原材料を他に支給して製造させたものを含む）を当該事業所から出荷した場合をいう。また、次のものも製造品出荷に含まれる。
  - (1) 同一企業に属する他の事業所へ引き渡したもの。
  - (2) 自家使用されたもの（その事業所において最終製品として使用されたもの）
  - (3) 委託販売に出したもの（販売済みでないものを含み、当該年に返品されたものを除く）
  
- 2 加工賃収入額とは、当該年に他の所有に属する主要原材料によって製造し、あるいは他の所有に属する製品又は半製品に加工、処理を加えた場合、これに対して受け取った又は受け取るべき加工賃をいう。
  
- 3 その他の収入額とは、上記1、2及びくず廃物の出荷額以外（例えば、転売収入（仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの）、修理料収入額、冷蔵保管料及び自家発電の余剰電力の販売収入額等）の収入額をいう。



#### 4. 付加価値額（従業者4人以上の事業所）

平成26年末時点で、本市事業所全体の付加価値額は4,582億9,829万円で県内第1位（構成比17.0%）である。（表I-5）

県内総額は前年比で5.6%減少（平成25年：2兆8,499億5,600万円）しており、本市においては、31.4%減少（平成25年：6,679億7,092万円）している。

表I-5 付加価値額県内上位10市

順位	市町村名	付加価値額(万円)
1	市原市	45,829,829
2	袖ヶ浦市	27,214,616
3	千葉市	23,970,551
4	船橋市	22,621,974
5	松戸市	12,918,849
6	野田市	12,067,329
7	君津市	9,918,538
8	佐倉市	8,858,215
9	八千代市	8,777,475
10	柏市	8,324,281
千葉県総額		269,058,353
市原市の構成比		17.0%

平成26年工業統計調査結果確報(千葉県)

#### ※付加価値額（粗付加価値額）

事業所の生産活動において、新たに付け加えられた価値をいう。

従業者29人以下の事業所は、製造品出荷額等を生産額とみなし、また、減価償却額を調査していないため、粗付加価値額として算出している。

工業統計調査における付加価値額の算出は次のとおり。

付加価値額 = 生産額 - (消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額)

－ 原材料使用額等 - 減価償却額

粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - (消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額)

－ 原材料使用額等

生産額 = 製造品出荷額等 + (製造品年末在庫額 - 製造品年初在庫額)

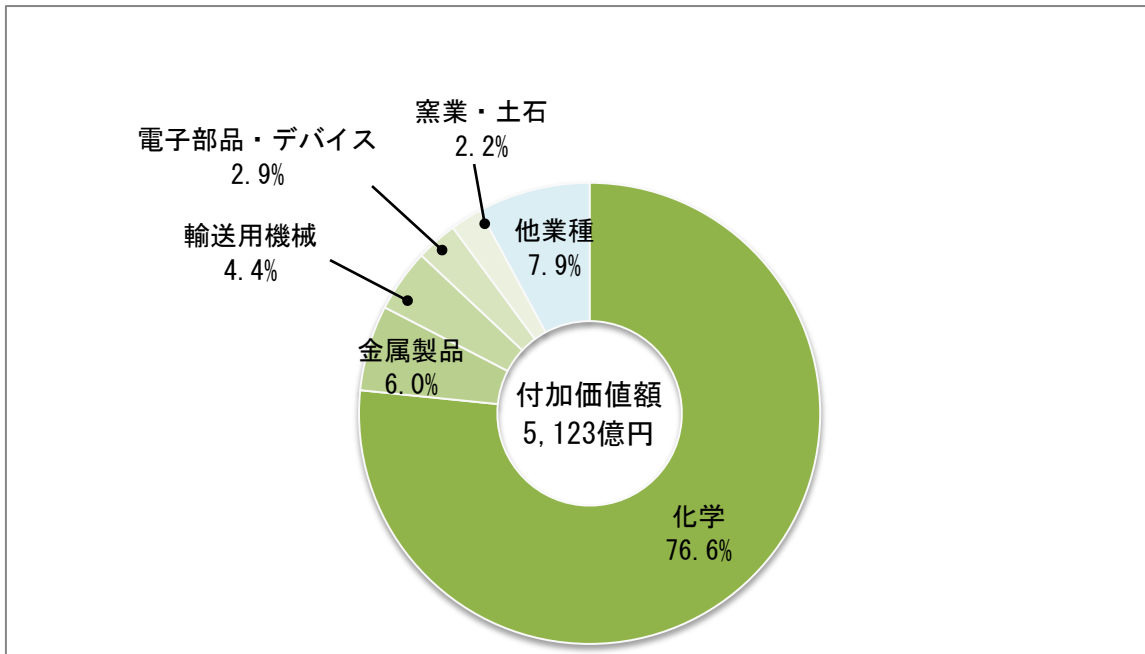
+ (半製品及び仕掛品年末価額 - 半製品及び仕掛品年初価額)

(1) 付加価値額の産業中分類別構成比

産業中分類別構成比をみると、「化学」が3,926億円(76.6%)と突出しており、「金属製品」306億円(6.0%)、「輸送用機械」224億円(4.4%)と続いている。(図I-6)

※付加価値額がマイナスになる業種は反映されていない。

図 I - 6 付加価値額の産業中分類別構成比



平成 26 年工業統計調査・市原市の工業(統計調査室)

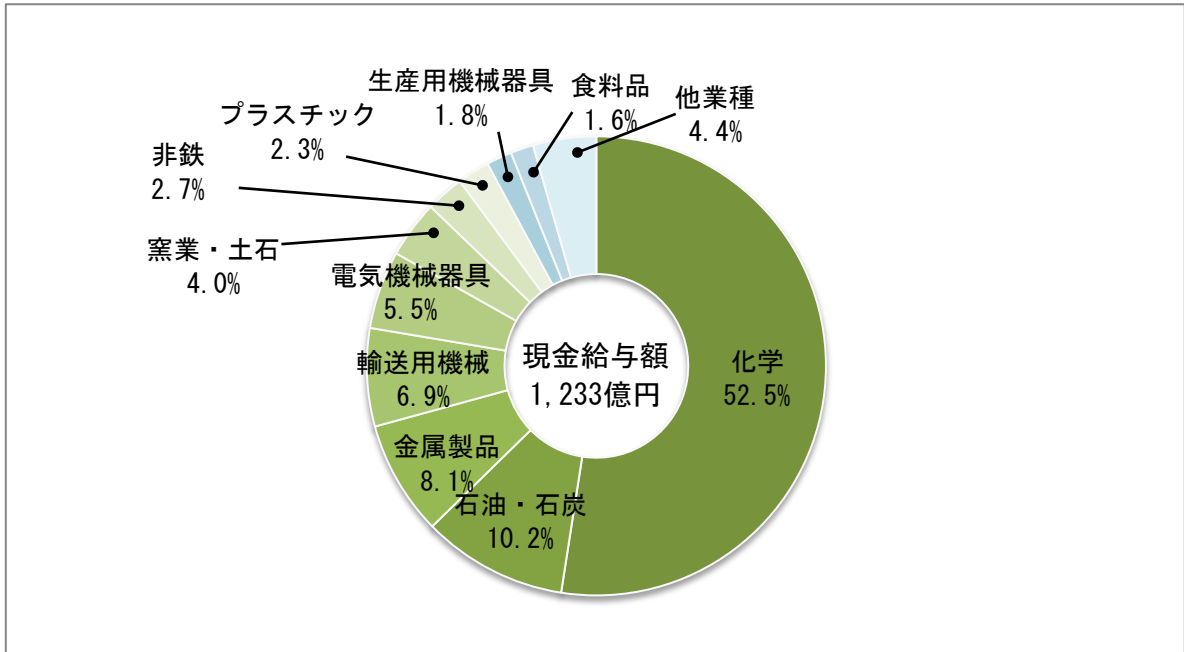
## 5. 現金給与総額（従業者4人以上の事業所）

平成26年の現金給与総額は、前年より0.9%減の1,233億円である。

### (1) 産業中分類別

現金給与総額の産業中分類別構成比をみると、「化学」が647億円（52.5%）と最も多く、次いで「石油・石炭」126億円（10.2%）、「金属製品」99億円（8.1%）と続いている。（図I-7）

図I-7 現金給与総額の産業中分類別構成比

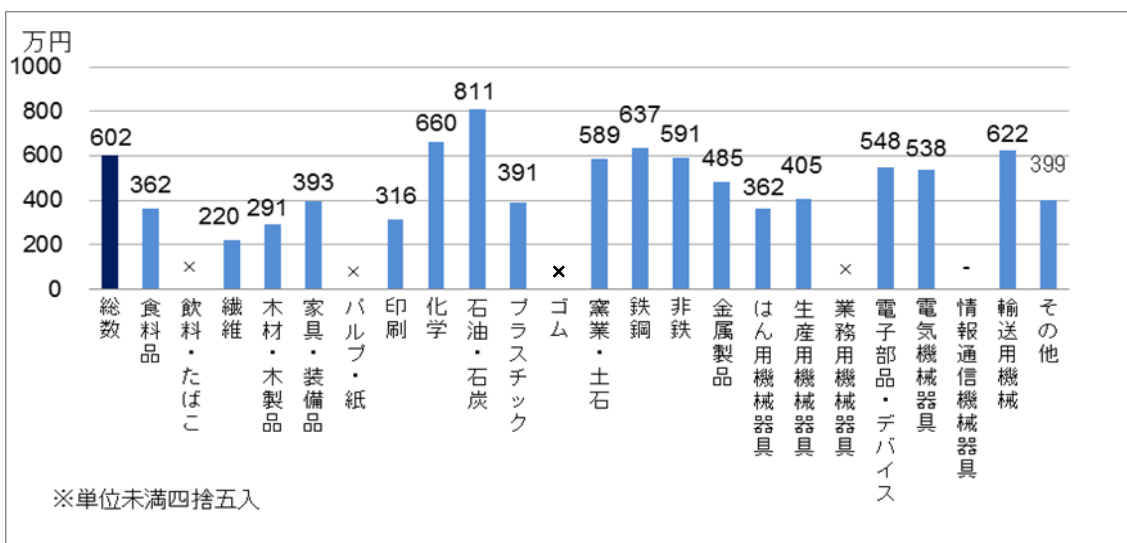


平成26年工業統計調査・市原市の工業（統計調査室）

### (2) 従業者1人当たりの現金給与総額

従業者1人当たりの現金給与総額をみると、「石油・石炭」が811万円と最も多く、次いで「化学」が660万円、「鉄鋼」が637万円と続いている（図I-8）

図I-8 産業中分類別の従業者1人当たりの現金給与総額



平成26年工業統計調査・市原市の工業（統計調査室）

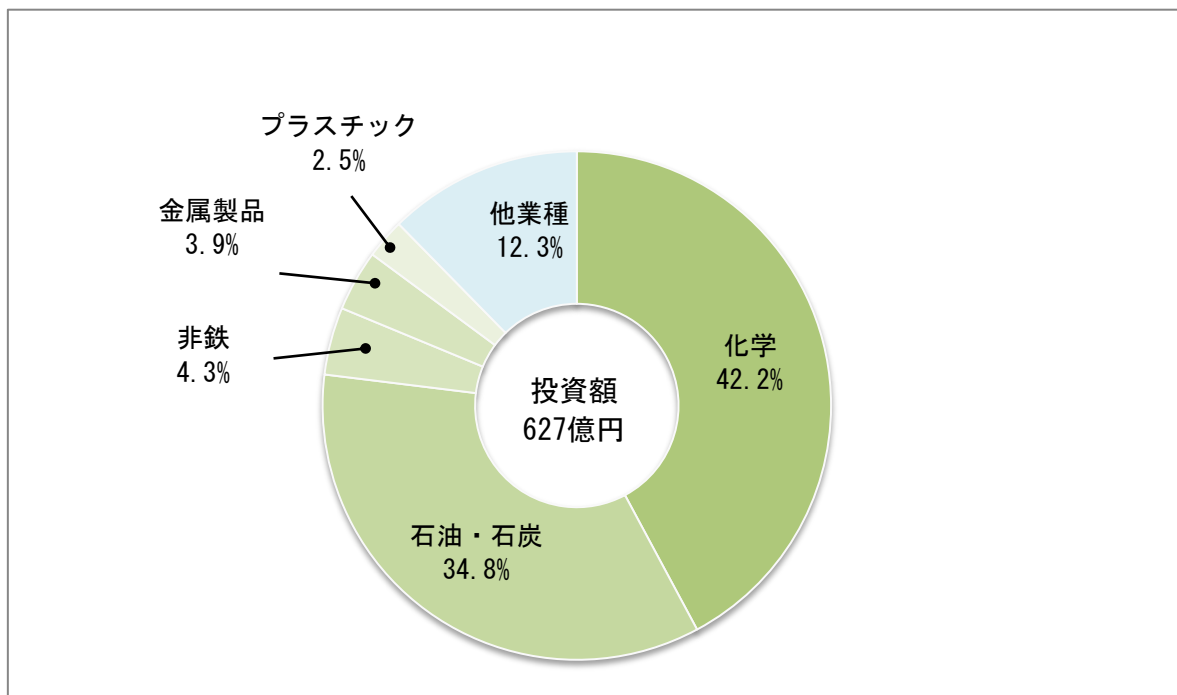
## 6. 投資総額の状況（従業者30人以上の事業所）

平成26年の投資総額は、前年の投資総額737億円より14.93%減の627億円である。

### (1) 産業中分類別

投資額の産業中分類別構成比をみると、「化学」が264億円（42.2%）と最も多く、次いで「石油・石炭」218億円（34.8%）と続いている。（図I-9）

図I-9 投資額の産業中分類別構成比

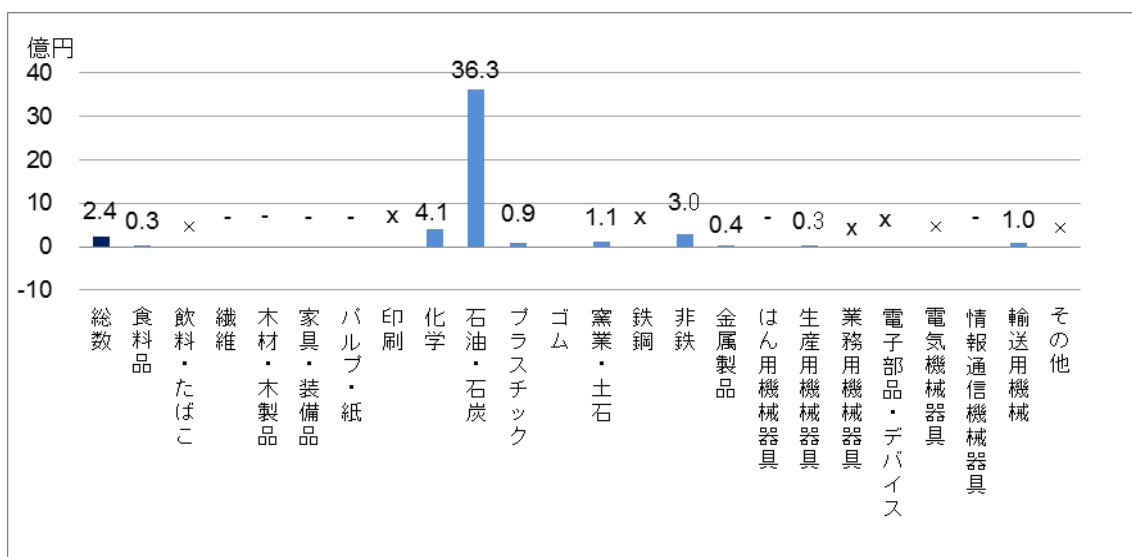


平成26年工業統計調査・市原市の工業（統計調査室）

### (2) 1事業所当たりの投資総額

1事業所当たりの投資総額をみると、「石油・石炭」が36.3億円と多く、次いで「化学」が4.1億円、「非鉄」3.0億円と続いている。（図I-10）

図I-10 産業中分類別の1事業所当たりの投資総額



平成26年工業統計調査・市原市の工業（統計調査室）

## II. 工業の振興

### 1. 企業立地の促進

#### (1) 企業立地に関する奨励制度

本市では、企業の立地を促進し、産業の振興、雇用機会の拡大と市勢の持続的な発展を図るため、「市原市企業立地促進条例」により、市内に対象施設を新設又は増設した企業などに対して奨励金を交付している。

平成 27 年 10 月には、更なる企業立地の促進を図るため、条例を改正し、奨励金の交付対象となる誘致地域を拡充するとともに、指定要件のうち、「特定流通業務施設」から「流通加工施設」に奨励金対象を拡大した。（表Ⅱ－1、2）

表Ⅱ－1 企業立地奨励金の交付対象及び要件

誘致地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業専用地域、工業地域、準工業地域</li> <li>・市街化調整区域のうち地区計画が定められた地域</li> </ul>
指定要件 及び 奨励内容	① 大規模立地奨励金 <ul style="list-style-type: none"> <li>・投下固定資産額が 10 億円以上（研究所の場合、3 億円以上）</li> </ul> 対象施設 工場、研究所 交付額 固定資産税相当額の 50%（5 年間を限度とし、総額 50 億円まで）
	② 新産業立地奨励金 <ul style="list-style-type: none"> <li>・投下固定資産額が 3 億円以上</li> </ul> 対象施設 新産業関連施設 交付額 固定資産税相当額の 50%（5 年間を限度とし、総額 5 億円まで）
	③ 立地奨励金（対象は中小企業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・投下固定資産額が 1 億円以上</li> </ul> 対象施設 工場、研究所 交付額 固定資産税相当額（5 年間を限度とし、総額 3 億円まで）
	④ 累積投資型立地奨励金（対象は中小企業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・投下固定資産額が操業を開始した日から 3 年を経過するまでに 2 億円以上</li> </ul> 対象施設 工場、研究所 交付額 固定資産税相当額（5 年間を限度とし、総額 3 億円まで）
	⑤ 流通加工施設奨励金 <ul style="list-style-type: none"> <li>・投下固定資産額が 1 億円以上</li> </ul> 対象施設 流通加工施設 交付額 固定資産税相当額（5 年間を限度とし、総額 3 億円まで）
	⑥ 雇用促進奨励金 事業者が新規に常用雇用した場合、一人当たり 30 万円を交付

表Ⅱ－２ 企業立地奨励金交付実績

年 度	件 数 (件)	交 付 額 (千円)
H26	8	122,613
H27	9	108,321
H28	10	117,913

(2) 市原市工場立地法地域準則条例の制定

工場などの立地については、工場立地法により、生産施設や緑地などの面積率が定められている。

本市では、工場立地法第4条の2第2項により、緑地などの面積率について、臨海部を対象に、国が定める基準に代えて、市独自の基準を適用する「市原市工場立地法地域準則条例」を、平成26年10月1日に施行した。(表Ⅱ－3)

緑地設置などの規制を緩和することで、臨海部における工場用地の有効活用を図る。

表Ⅱ－３ 市原市工場立地法地域準則条例の内容

区 分		制定前(県準則)	制定後
工業専用地域	緑地面積率	10%以上	10%以上 臨海部は5%以上
	環境施設面積率	15%以上	15%以上 臨海部は10%以上
工業地域	緑地面積率	15%以上	15%以上 臨海部は5%以上
	環境施設面積率	20%以上	20%以上 臨海部は10%以上
準工業地域	緑地面積率	15%以上	15%以上
	環境施設面積率	20%以上	20%以上
重複緑地の算入率上限		敷地面積に緑地面積率を乗じて得た面積の100分の25	敷地面積に緑地面積率を乗じて得た面積の100分の25 臨海部は100分の50

### (3) 企業の操業環境の支援

#### ① ワンストップサービス

企業の円滑な活動を支援することを目的に、企業から本市に対する問合せや相談を一元的に受け、速やかに解決を図るワンストップサービス事業を実施している。

(表Ⅱ-4)

表Ⅱ-4 ワンストップサービス事業実績

(単位:件)

区分	年度	H26	H27	H28
企業立地(増設)に関する事項		10	7	5
企業立地(新設)に関する事項		14	15	8
行政・企業間の共同事業に関する事項		1	0	0
活性化策(特区など)に関する事項		3	0	1
合計		28	22	14

(注1) 行政手続き、行事打合せなどを除いた数値である。

(注2) 同一施設の相談は、1件としている。

#### ② 婚活 in コンビナート(京葉臨海コンビナート婚活支援事業)

臨海部工場連絡会の各支部が主催する婚活事業を後援している。

名称	主催	開催日	参加者数
婚活 in コンビナート ～愛のものづくり～	八幡支部	平成28年10月29日	58人
婚活 in コンビナート ～恋の化学反応～	五井支部	平成28年11月5日	72人
婚活 in コンビナート ～運命の出会いを求めて～	姉崎・千種支部	平成28年12月3日	63人

## 2. 中小企業の基盤強化

### (1) 中小企業人材育成支援事業(詳細177ページ)

時間やコストなどの制約により研修機会が不足しがちな中小企業を対象に、企業の実情に適した専門家による訪問相談や講師の派遣、フォローアップが一体となった支援を実施している。

### (2) 中小企業基盤強化連携促進事業補助金(詳細177ページ)

市内の中小製造業者が、製品の高品質化や生産能力の増強などのための設備投資を行った場合、その経費の一部を補助し、また、同業種間、異業種間による設備投資に対しては、上乗せ補助を行っている。

### (3) 中小企業の連携促進(詳細176ページ)

異業種連携、産学官連携、セミナーなどを通じて、既存事業の拡大、新規事業への進出を促す機会を設けることにより、中小企業の振興を図っている。

### (4) 市原市ISO及び環境マネジメントシステム認証取得事業補助金(詳細178ページ)

経営基盤と品質・環境管理体制の強化に取り組む中小企業を支援するため、平成15年度からISO認証取得事業に対する補助金を交付している。また、平成24年度に補助金要綱を改正し、環境マネジメントシステム認証取得事業も助成対象としている。